

校長室だより **春日** (しゅんじつ)
校長 清武 直人

先生の言葉

「お互いがそっぽを向くと
地球1周分の距離になる」

これは、年配の方のお話ですが、この方が高校生のときに、大好きだった物理の先生がお話ししてくださった言葉だそうです。

なるほど！です。
「仲良くしなさい！」
「協力しなさい！」

って、1万回唱えるよりも、この一言の方がはるかに心に響きます。

何十年経っても子どももの心に残るような言葉を持ちたいものです。

恩師に心に残る言葉をいただいた記憶はあるのですが、残念ながらまだ与えた記憶がありません。

うう・・・・・・(ToT)。

妻の言葉

旭化成ホームズの調査結果が新聞に載っていました。「夫の家事意欲を失わせた妻の一言」です。

「洗濯物をたたんでいたらへたくそと言われ、二度とやるものかと思った」

「食器の片付けをしていたら段取りが悪いと言われ、悲しくなった」

・・・・・・・・・・・・・・・・

ああ・・・・、分かるなあ・・・・。

男の心は繊細なんだよねえ・・・・。

(すみません。女性の心の方がもっと繊細だと思うのですが・・・・)

夫をやる気にさせるために妻が心がけていることも載っていました。参考までに！

「家事をしてもらったら“ありがとう”と絶対に伝える」

「子どもが喜ぶから」という」

「だめな主婦を装う」

良きにつけ、悪きにつけ、妻の一言が夫の家事意欲に大きく作用しているということでした。



教師の度量

先日、落語家の林家たい平さん(日曜日の笑点に出演されています)のお話を聞かせていただく機会がありました。

中学生の頃は、先生に対して反抗ばかりしていたそうです。先生の言うことにいちいち素直になれないそんな時、社会科の歴史のテストにこんな問題が出たそうです。

「徳川家康と石田三成は()で戦った」

たい平さんは、答えは分かっていたのですが、あえて「必死」と書いたそうです。

「徳川家康と石田三成は**必死**で戦った」

テストが返ってきて答案用紙を見ると、なんと、×ではなく、△がついていたそうです。そして、「+3」と記されていたそうです。後日、

「先生にはお前のような発想はなかった。やられたな。」
と言われたそうです。

それ以来、たい平さんは、先生に対する態度が変わっていったということでした。

洗濯物のたたみ方が少々悪くても、「素敵なたたみ方ね。私にはそんな発想なかったわ♡♡♡」

なんて言われたら、もう、夫は大変身！